

第2回瑞浪市道の駅検討委員会 ＜議事要旨＞

日時：平成30年7月30日（月）13：30～

場所：釜戸コミュニティーセンター

出席委員：足立亘、石川亮子、鷺見正己、出村嘉史、名張誠、原田守啓、水野吉衛、
水野幹隆、溝口純司、溝口博敏、森真二、鷺尾賢一郎、渡邊敏博
（五十音順、敬称略）

欠席委員：伊藤和美

事務局：瑞浪市役所 建設部 都市計画課

■会議概要

（※議事要旨の発言者は、学識経験者の原田会長・出村委員のみ表示）

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

- ・ 議事に先立ち、事務局より第1回検討委員会の議事録の確認を行った。

事務局 議事録は委員の個人名を伏せた状態で、市のホームページで公表しても良いか。

一 同 異議なし。

出村委員 発言内容が違うところがあるので、修正していただきたい。

事務局 指摘事項を修正の上、公表する。

会長 それでは議事次第に沿って進行する。

（1）地域活性化の拠点整備に関するアンケート結果報告

- ・ 事務局より資料1の説明を行った。

会長 前回もアンケート結果を報告いただいたが、今回は年齢層ごとにどういう考えを持っているのかについて、より詳しい結果を報告いただいた。年齢層によって違う意見を持っていることがわかったので、今後は年齢層を考慮しながら議論を進める必要がある。アンケート結果について何か意見はあるか。

委員 P8にある住みやすい地区となるための条件として、「生活利便施設の充実」とあるが、生活利便施設とは具体的にどのような施設か。

事務局 ここでは具体的な施設を示していないが、それを裏付けるものとして、P11にあ

る地域住民のための視点として、スーパーマーケットや医療機関、大型遊具のある公園が必要だと考える意見が多くある。このような施設が住民の考える生活利便施設だと認識している。

委員 回答者が思い浮かべる施設は様々ではないか。

会長 P11 において、機能が細分化されているので、その回答からある程度読み取るとは可能である。これは確認であるが、P13 において、道路利用者のための視点を問う設問があるが、これはあくまでも地元住民の推測によるものであり、実際の道路利用者のニーズは、事務局にて別途行うアンケートにより把握する予定である。この事業の成否は、どれだけの人の関わっていただけるかによるものが大きいと考えるが、アンケート回答者のうち 1 割程度が関わることに前向きな回答をしている。アンケートは無作為に各世代 100 人ずつ配布し、回答率は 38%であったが、回答者以外にも興味を持っている人はいるだろう。委員の方々の周辺で興味を持っている人はいるか。

委員 ボーノポークや恵那鶏を使った食品を提供したいと具体的な話をしている人がいる。またその場所を使ってイベントを企画したいと言っている人もいる。アンケートに回答していない人の中にも、関わりたいと考えている人はいるようだ。

委員 釜戸地区には、子育てしながら働ける場所がない。近くに子供を預ける場所と働ける場所が欲しい。

会長 アンケート結果では、出資したいと考える高齢者も多かったが、身近な人の意見はどうか。

委員 地場産品の生産者等の中には、道の駅で販売したいと考えている人もいるので、そういった人々へ働きかけていくことも重要である。

委員 株式会社を作り、株主として出資してもらい、株主総会等で助言をいただくこともあり得る。出資といっても、様々な関わり方がある。

会長 道の駅との関わり方については、後程改めて議論いただく。それでは次の議事に移る。

(2) ワークショップ開催結果報告（中間）

・事務局より資料 2 の説明を行った。

会長 第 3 回までのワークショップについて報告いただいたが、何か意見はないか。

委員 第 3 回ワークショップでは高校生が参加し、新鮮な意見もあった。ただ、各々の願いや思いによる意見もあったので、釜戸の特徴を踏まえて考えていかなければならない。

会長 ワークショップでの意見はコンセプト等を検討する上で、補完的役割を果たすものと認識している。

- 委 員 釜戸の資源や受け継がれてきたものを打ち出せば、良いものができるのではないかな。
- 会 長 ワークショップの参加者はどういうメンバーか。
- 事 務 局 消防団やまちづくり協議会、商工会議所の方々や、大湫住民もいる。
- 会 長 ワークショップの意見は参加者の属性も踏まえた上で理解する必要がある。
- 委 員 高校生の意見は、彼らと同年代の人が来たいと思うような意見が多かった。また情報発信の仕方については、SNS 等を活用したものが中心になっていると感じた。
- 出村委員 ワークショップは自由な意見交換を行う場であるので、意見そのものよりも、どういう人が参加し、どのような経験をしたかということの方が重要だと思う。イベントとして盛り上がることには大いに意義があるが、結果そのものを重視するのではなく、人と人との繋がりを重視していきたい。またここに参加した高校生に少しでも興味を持ってもらうことが重要である。
- 会 長 ワークショップの開催自体が資産となっている。それでは次の議事に移る。

(3) 道の駅導入機能・コンセプト検討について

- ・事務局より資料 3、資料 5 の説明を行った。
- 会 長 資料はあくまでも案であり、これをたたき台として議論いただきたい。またスケジュールについては、10 年後にいきなり道の駅ができるのではなく、それまでの間にも様々な取り組みを行うことを想定した案を提案いただいた。
- 委 員 敷地は土岐川と佐々良木川に囲まれているが、災害時の避難場所として安全と言えるのか。先日的大雨の際に、釜戸コミュニティーセンターへ避難しようと思ったが、川を渡らなければならなかった。川を渡らなければ避難できないというのは危険ではないか。
- 事 務 局 敷地には隣接して土岐川と佐々良川の合流点があり、洪水のリスクは高い場所である。そのため、大雨の際にどこまで水位が上がるのか等の詳細な検討を行った上で、避難場所の検討を行う。
- 会 長 釜戸は川と山に挟まれた地区であり、土砂災害と洪水の恐れのある地域である。ゆえに安全な避難場所については地域全体で考えていく必要がある。
- 事 務 局 地域活性化の方向性やコンセプトをまとめるにあたり、道の駅だけではなく、公共施設の集約等についても意見が出ているため、市としては、それについても取り組みたいと考えている。具体的な内容については今後検討していくが、敷地周辺にある竜吟幼稚園や釜戸コミュニティーセンター等の公共施設を道の駅周辺に集約することも基本構想の中に盛り込みたい。本委員会では、道の駅だけではなく、上平交差点周辺の将来的な土地利用についても見定めながら、検討を進めたいと考えている。

- 委員 公共施設の集約化は、住民の希望ではなく、公共施設の再整備という市の課題として、この委員会の議題にするということか。
- 事務局 そうである。道の駅を整備するだけでなく、上平交差点や釜戸駅周辺のまちづくりについても基本構想の中に盛り込みたいと考えている。
- 委員 この委員会は「瑞浪市道の駅検討委員会」であるが、釜戸町ということが前面に押し出されている。釜戸町ではなく、瑞浪市に道の駅ができるという観点で話を進めていただきたい。ターゲットを住民にするのか来訪者にするのかによって施設内容も大きく異なると思うが、議論の方向が釜戸中心になっている。今回は市内初の道の駅ということで、瑞浪市にとって何が必要なのかという検討も必要ではないか。この道の駅は誰のための施設なのかという前提条件を明確にしなければ、他の地区の方は、釜戸のための道の駅を皆で考えていると思うのではないか。
- 会長 非常に重要な視点である。もちろん釜戸のためだけでなく、瑞浪市全体のためでもあり、また道路利用者のためでもあるということ忘れてはならない。
- 出村委員 公共施設の整理と釜戸のまちづくりは深刻な問題であり、皆で理解しなければならない。全体的な話として、人口が減少し、税収が減ってきているので、公共施設の整備費が減ることになる。これは維持管理費についても同様である。公共施設の整理は全国的な問題であり、皆でマネジメントしていくためにはターゲットを絞っていかなければならない。この問題をどうすればいいかという答えのひとつとしては、公共がサービスとして行っていることの一端を利益の上がるサービスとして民間が行うということである。お客さんを呼び、収益を上げることで施設を維持する。周辺のやる気ある人々がここで何らかの営業を行うことで、公共施設を維持することに繋がっていけば良い。自治体はこれに取り組んでいかなければならない。今は釜戸が舞台になっているが、まずはここを利用しながら施設を維持するための費用をまかなえるかどうか勝負である。公共施設の運営において、瑞浪市全体の税収が減っている中で、釜戸は釜戸でお金を生み出し、支えるということができれば、それはひとつのモデルケースとなり、公共施設の維持の仕方も本質的に変わり得る。そういう役割をここで担うことは自治体として意味がある。
- 委員 前提条件を決めれば良い。議論の途中で釜戸のためにやっているのかということになると問題である。
- 会長 誰のために何をするのかという本質的なポイントである。
- 委員 私の知り合いで関わりたいと言っている方は瑞浪市民であり、釜戸町以外の方も注目している。たまたま場所が釜戸町であるということだ。
- 委員 この委員会の委員構成は釜戸町の方が多いので、釜戸中心の議論となりやすい。他の地区の方々にも、道の駅について議論していただく場を設けなければ、こ

の委員会だけで全ての機能を果たすことには無理がある。

事務局 市の取り組み状況として、ワークショップ以外にも、市の関係部署を集めた庁内ワーキングにて、並行して議論を進めている。また検討委員会の結果は公表していく予定であり、市議会においても状況を報告している。今後、議会の方々にも様々な意見をいただく機会を設けたいと考えている。

委員 そういう所で出た意見は、この委員会でも共有してもらえると公益的な観点から道の駅を考えるきっかけとなる。

事務局 様々な方の意見をいただく形で検討を進めるつもりである。

委員 委員の方々はたまたま釜戸の人が多くなっている。

委員 釜戸の人が多いので、他の地区から不満が出る恐れがある。

委員 岐阜県には道の駅が非常に多い。ただ道の駅に来る人は、何市の道の駅かという意識はないのではないかと。例えば、そこに牧場があって牛乳が取れるからといった、その土地の匂いを嗅いで来るような印象があるので、釜戸の特徴をきちんと示さなければ、立ち寄ってもらえないのではないかと。

会長 釜戸らしさは大事である。

委員 ここで議論するのは良いが、市全体のバランスの中でどういう風に機能を生かしていくのかということが欠落するのではないかと不安がある。それを担保するために、他の方々の意見を反映する場を別に設けておく必要がある。

会長 瑞浪市全体という話もあるし、道路利用者のためという話もある中で、広い視点から客観的に見たときに、市としてこの場所に期待する機能があるのであれば明確にしていきたい。

事務局 市全体で釜戸の道の駅をどうしたいのかということを決めているわけではなく、委員会の中で決めていきたいと考えている。ただ大きな方向性としては、瑞浪市民や釜戸町の住民にとってメリットのある道の駅でなければならないと考えているので、仕掛けづくりや取り組み方法が重要になると思う。アンケートの回答では、スーパーマーケットや金融機関といった施設が欲しいという意見があったが、道の駅に付加する機能自体を市民が運営するような仕組みが必要ではないかと考えている。ただ単に道路利用者のためだけではなく、地域のための道の駅にしたい。

委員 資料3で釜戸地区の現状が書かれているが、瑞浪市においても釜戸と同様の課題がある。あえて釜戸に特定する必要はなく、瑞浪市の現状を踏まえて、市内に道の駅を造り、地域を活性化するということであり、たまたま適地が釜戸にあったということである。広い視野で議論を進める方がスムーズに進むのではないかと。

出村委員 釜戸地区の現状に関する分析は足りないようだ。

委員 瑞浪市の中でも特に釜戸には、温泉が集中して立地している地区だったが、こ

の辺りの泉源はどの程度の能力なのか。

委員 温度の高い温泉が出る地域ではないことは知られていると思うが、周辺でボーリング調査をされた業者さんによると、土岐川より北側であれば、釜戸のどこを掘っても温泉が出るということであった。ただ土岐川より南側については水脈が違い、掘ったら出るというわけではないと言っていた。北側についてはかなりの水脈があることが想定されるが、今回の建設予定地は南側であるので、どうなのかわからない。

委員 元々この辺りは冷泉であるが、水量さえあれば配管で現地に供給でき、大きな負担はないのではないかな。

委員 なぜ温泉施設が欲しいと言われているのか。

委員 もともと市内には日帰り温泉があったが、経営の問題で閉鎖してしまった。その際に市民の反対運動もあり、どうにか守ってもらいたいという人々の思いもあったが、結果的に閉鎖してしまった。そういった経緯があり、今回のアンケートでも温泉を生かしたいという市民の意見が出ているわけである。湯出量が確保できるのであれば、ひとつの要素として取り入れられると良い。

会長 先ほど問題提起していただいたように、今議論しているのは、瑞浪市全体のためになるのだという前提条件が重要である。結果的にその場所として釜戸が予定され、釜戸のまちづくりとも連携しながら、道の駅だけではなく生業の場として発展していけば良く、将来的に行政の一部を担うことになるかもしれない。前提条件については再度整理を行うが、誰のための施設であるのかという点については、いくつかの階層があることは理解していただいたので、具体的な中身の部分について議論を進める。

委員 道の駅は地域活性化のために造るのか。道の駅を造った結果、地域が活性化したということであれば理解できるが、活性化するために道の駅を造るというのはどうか。

事務局 道の駅は道路利用者のための施設というのが本来の目的である。その条件の中で、市としては瑞浪市や釜戸町における課題を解決するための施設と考えている。課題を解決するために、どうすれば良いかということについて議論いただきたい。

会長 地域を活性化するための策として道の駅を造るのではないということか。

事務局 そういうことである。道の駅は地域の課題を解決するための手法のひとつと考えている。

会長 道の駅という枠にとらわれる必要はないのか。

事務局 市としては、道の駅だけを考えているわけではない。道の駅とその周辺について、どうあるべきかについて考えていきたい。10年後に道の駅ができるということだけがゴールではなく、その先も見据えて議論いただきたい。

会 長 10 年後にできる道の駅について、現時点でリアリティを持って議論することは難しい。アンケートでも、20 代、30 代は働き場所や子育て等、目先の問題について、回答している。10 年後にできるものについて今議論することは本当に地域のためになるのかという疑問があったので、それに関して事務局に問題提起した。そこで資料 5 のスケジュールのプラン B を見ていただきたい。このプラン B は、道の駅ができるのは 10 年後かもしれないが、その時にはすでにその場で活躍できる組織が育っている状態にできないかということで、事務局が作成したスケジュールである。10 年間で段階的に場を整備し、その場を使って何かをしたいと考える人々が、勉強しながらビジネスを立ち上げられる準備期間を設けている。事務局よりスケジュールについて説明いただく。

(5) 道の駅整備スケジュールについて

- ・ 事務局より資料 5 の説明を行った。

会 長 プラン A は道の駅が完成するまでの間、担い手となる人の動きが全くない状態である。プラン B は、この地域を盛り上げたいという人々に集まっていただき、先に組織作りを行う案である。段階的に運営に取り組めるように、人々が繋がり、ビジネスの勉強をできる場所を作り、仲間作りを行えるようにする。そうすることで、道の駅ができる頃には、その場を支える組織がすでにでき上がっている状態となる。資料 3 において、「釜戸のまちとともに育つ道の駅」というコンセプト案を記載しているが、瑞浪市を支えていただける方々が集まれる場を先に整備し、10 年後に望まれるものが最終的に整備されるということで良いのではないかという提案である。企業勉強会とはどのようなものか説明いただきたい。

出村委員 今は地方都市が着目されている時代でもあり、シャッター通りが蘇るといった話も聞こえてくるが、そういう活動はエリアリノベーションをキーワードとして行われている。敷地に価値があるという従来の考え方ではなく、空き家だとしても、使える資源として考え、ひとつの建物をリノベーションして使う。そのエリアに魅力があるからこそ人が集まるという考えのもと、行けば何かがあると期待してもらえるようなエリアを作ることに取り組んでいる人々がいる。岐阜市柳ヶ瀬では、30 代、40 代の女性を主なターゲットとして、毎月第 3 日曜日にアーケードを利用して市を始めた。すぐに 150 店舗の募集に対して 200 店舗以上の応募が集まるようになった。ターゲットを明確にしたことで、そこに興味を持つ人の応募が増え、クオリティの高い市を開催している。マーケットを作り、町の中に改めて価値を生み出している。こういった取り組みは先進事例を見ると分かりやすい。そういう活動を行っている人々を呼び、一緒になって活動していただくのが良いと思う。また美濃加茂市にリバーポートパークと

いう施設が最近オープンしたが、そちらは10年前から人を育てる取り組みを行っている。ちょうど10年というスキームがあるので、そこに集まった人々で世代を超え視野を広げていけるように取り組むことができれば良いと思う。プランBはこれでも遅いと感じている。2〜3年ほどである程度話は進むので、とりあえず小規模でも試しにやってみて、ノウハウを積み上げていけば良いので、スタートは早い方が良い。

会 長 ここで議論する内容は、どういう箱を造るのかということではなく、ここで誰が何をするのかということである。ここに集まってくる人々が将来的には瑞浪の方々でビジネスやまちづくりで活躍していただけるということになれば、この地域だけではなく、瑞浪全体に良い影響をもたらしてくれる。これは事業の進め方の提案であり、どういった機能を導入するのかという議論とは別の話である。まだ議論が尽きていないが、どのように進めるのが良いか。

事 務 局 運営体制の試行期間という新たな議題も挙げていただいたので、委員会の開催回数については検討する。

会 長 事務局には、誰のために何をするのかという前提条件を整理していただき、改めて提案いただきたい。事業のスケジュールについては、道の駅だけを考えて場合、10年ほど先の話になってしまうので、それまでの時間を活かして、どのように段階的に取り組むのかについて議論する必要がある。

委 員 実践的に10年間取り組みを行うということについて、委員会としてはどういった方針で議論を行うのか。

会 長 この案について賛同いただけるか。

委 員 場所は釜戸であるが、瑞浪市に道の駅ができるということに対して皆様から意見をいただきながら検討を進めているという認識が共有できれば問題ない。

会 長 前提条件については、事務局で整理していただく。また場所ができあがって、テナントを募集するという流れではなく、この場所だけではなく、市内で活躍できる組織を作るためのきっかけとして、段階的に取り組めるように整備することについては賛同いただけるか。

委 員 アンケート結果から、関心を持つ人が多いということはわかったが、そういう人々を計画に取り込んでいくための働きかけを行わなければならない。

会 長 どういう場にしていくかということと、そこで活躍する人が組織を作り、勉強できる場を作るという2つのことに取り組む方針で今後の議論を進める。それでは次の議事に移る。

(4) 近隣県在住者アンケートについて

・事務局より資料4の説明を行った。

会 長 このアンケートは道路利用者のニーズを分析するために実施するものである。8

月中に実施予定ということなので、気付いた点があれば、早めに事務局へ連絡
いただきたい。それでは最後の議事に移る。

(6) その他

事務局 地域活性化に向けた新たな拠点の検討に関する瓦版は、釜戸町と大湫町にすでに配布している。また市のホームページでも今後、公表予定である。次回の委員会は11月12日(月)13時30分から予定している。

会長 議論の時間が足りないと感じているので、事務局と相談の上、次回委員会までの間に追加で開催する場合は、事務局より早めに連絡していただく。

事務局 本日の議事録は事前に配布するので、内容を確認いただき、次回委員会の際にご意見をいただきたい。

4. 閉会

以上